

第3学年 総合的な学習の時間 『探究Ⅱ』（1単位） 年間指導計画

■『探究Ⅱ』の目標

- 『探究Ⅰ』の追究成果や既習の知識や技能を活用して、**読み手を意識した英字新聞**を作成することができる。
- 作成した新聞を基に、担当した記事やその内容に関連した事柄、自身の考えについて、メモやアウトライン、数枚のスライドなどを用いて英語でプレゼンテーションすることができる。
- 集団に協働的・主体的に関わり**、コミュニケーションやディスカッションを通して学び合い、課題や場面、状況に応じて**自律的に学習や活動を進める**姿勢を身に付ける。

※ 読売新聞とのコラボによる英字新聞作成プロジェクトに参加し、英字新聞コンテストへの出品を1つのゴールとする。

※ 『探究Ⅱ』は、時間割編成の都合上、ホームルームクラス単位（全員履修）での実施となる。

■年間活動スケジュール案

注1 「評価の観点」の①～③の内容は次のとおりである。①批判的思考力 ②協働的思考力 ③創造的思考力

評価対象は、英字新聞・記事、ノート・授業中の取組の様子、自己・相互評価シートとする。

注2 「評価の観点」の記号のうち、◎は最重要項目、○は重要項目であることを示す。

月	単元名と単元のねらい	活動	主な学習活動とねらい（活動目標）	評価の観点		
				①	②	③
4	◇講座ガイダンス	○クラス別ガイダンス ○小グループでの話し合い ○クラス全体での共有	・春休み前のガイダンス、春休みの課題（探究Ⅰの英文アブストラクト）を小グループで共有する。（英文の評価と日本語の説明） ・教師の説明を聞き、『探究Ⅱ』の取組のねらいを理解する。 ・過年度の「総合的な学習の時間」の取組について、成果と課題を共有する。		◎	○
5	◇チーム（記事を書く記者グループ）を決めよう	○小グループでの協議 ○テキストを用いた学習（新聞記事の種類と目的）	・編集部を編成し、クラスごとに生徒が主体的に取り組めるような組織作りとガイダンスを行う。 ・新聞の書き手としての視点や読み手を意識して新聞の大テーマを話し合い、新聞づくりの目的を共有する。 ・新聞記事の種類や必要な視点について理解する。	○	◎	
6	◇取材・情報収集を行い、記事原稿を仕上げよう	<1チーム3～5人で活動> ○過去の総合的な学習の時間や教科の学習で作成したレポートや論文、資料の見直し ○必要な資料や図表、データの洗い出し ○新たに必要の取材先やデータ収集方法の確認・企画立案 ○編集部との記事内容や取材方針のすり合わせ	・動画やテキストを用いて、取材方法や英文による記事の書き方について理解する。 ・各チームと連携し、コミュニケーションを図りながら、記事の重複や方向性について検討を重ねることができる。 ・編集部は、各チームの記事や設定した大テーマと記事の関連など、全体を見通した立場や視点から各チームにアドバイスをしたり必要な作業を促したりすることができる。 ・チーム内で記事の内容や表現の仕方、データや資料の客観性などについて検討し、記事を書くことができる。 ・フィールドワークのアポ取りや実験、校外学習時の外部機関への対応などの既習の知識や技能を活用し、必要に応じた取材や調査を行うことができる。		○	◎
7 8	◇紙面割を決めよう	○ここまでの取組に関する自己・相互評価 ○クラスごとに編集部原案に対して意見を出し合い、紙面割を確定 ○紙面割を基に、記事の推敲・再編集計画の立案	・チームとしての取組やチーム内のメンバーの取組について、示された視点を基に自己・相互評価をして、改善点を見出すことができる。 ・自チームの記事と新聞全体のバランスの両方を考慮した上で、新聞紙面割確定というゴールの達成のために建設的に議論をすることができる。 ・これまでの取組の成果と課題から効果的なチームの業務計画（夏休み中に進めるべき作業等について）を立案、実行することができる。	○		◎
9 10	◇クラス新聞を発行しよう	○大テーマごと、大テーマ間、新聞紙面全体など、様々な視点やグループ形態による新聞紙面や記事の最終推敲 ○新聞全体の読み合わせ ○The Japan Times編集部（GEIC）との紙面校正のやりとり	・異なる集団や形態でも目的を理解し、目標を達成するために協働的に他者に関わって課題を解決することができる。 ・英語科で学習したライティングや既習知識を活用して、新聞の推敲をすることができる。 ・必要な内容や改善点、要望などをメールや電話、直接の交渉などの場面に応じたコミュニケーションスキルやマナーを用いて伝えることができる。 ・編集部としてリーダーシップを発揮し、各チームをまとめ、1つの新聞を期日までに完成させることができる。	◎		○
10 11	◇記者解説を聞いて新聞を読み合おう	○記事を担当したチーム（記者）による記事作成の意図や伝えきれなかった情報について英語で行うプレゼンテーション ○他クラスの新聞の鑑賞	・英字新聞の外部コンテストに応募する（予定）。 ・プレゼンテーションソフトやフリップを活用して各チームで英語で要点や作成の背景、補足的な情報を英語で伝えることができる。（聞き手として留学生や大学生など高校生以外を対象に発表できる機会があるとよい。※検討中） ・プレゼンテーションを聞いたり記事を読んだりして、記者に対して端的に英語で質問や感想を伝えることができる。 ・プレゼンテーションや新聞全体の出来について、自己・相互評価を行う。		○	◎
11 12	◇新聞作成のプロセスを振り返り、作成のコツをまとめよう	○次年度の後輩に向けて、作成プロセスを振り返って作業やチームワーク、クラス全体の協働的な取組を行う上でのポイントをまとめる作業	・これまでの新聞作成プロジェクトのプロセスで残した資料や記録を基に、作成の際のポイントとなる事柄をチームや個人、編集部やクラス全体などの複数の視点から端的にまとめることができる。	○		◎
	◇探究Ⅱの取組をまとめ、自己評価を行おう	○自己評価と活動後レポートの作成（個人）	・新聞作成で得られたものや気付いたことなどを、「コミュニケーション」、「論理的・批判的な思考」、「ジャーナリズム」、「英字新聞」などのキーワードを基に振り返り、活動後レポート（A4版1枚程度）にまとめることができる。	◎		○

備考 ・ 主担当教員が、活動案や全体のカリキュラムデザイン、編集部長（各クラスに編集部を編成）の生徒への主な指導・指示を行う。
・ 各クラスに1名の担当教員が付き、活動の支援や編集部への指導を行う。